

歴史総合 考查対策プリント

次の文章中の空欄に適する語句を答えよ。

ドイツでは(1)国民議会が挫折し、ドイツ統一の主導権は自由主義者から、プロイセンの保守的支配層である(2)に移った。(2)出身のプロイセン首相(3)は、「鉄血政策」をとなえ、軍備増強と、武力によるドイツ統一を推進した。(4)年、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン両州をめぐって、(5)とともにデンマークと戦って勝利すると、66年には両州の管理をめぐって発生したオーストリアとの戦争(プロイセン＝オーストリア＜普墺＞戦争)でも勝利をおさめた。翌年、プロイセンはみずから盟主とする(6)連邦をつくった。フランスの(7)は強大なドイツの出現をおそれ、ドイツ統一の阻止をはかったが、(3)の挑発を受け、(8)年にプロイセンと開戦した(プロイセン＝フランス戦争)。この戦争では、これまでプロイセンと距離をおいていた(9)諸国もプロイセン側に立ち、プロイセン側が圧勝した。1871年、占領下のヴェルサイユでプロイセン国王がドイツ皇帝(10)として即位し、ドイツ帝国が誕生した。

ドイツ帝国はドイツ諸国による連邦国家で、プロイセン国王が皇帝を兼ねた。(11)議会は(12)普通選挙制にもとづいていたが、皇帝が大きな権限をもち続けた。実際の政治の主導権は、帝国宰相(3)が握った。(3)はドイツ南部の(13)勢力を帝国の安定の脅威とみなし、「文化闘争」によっておさえ込みをはかった。一方、工業化の進展にともなって、(14)運動が伸張し、マルクスの考え方に立脚する社会主義政党(のちの社会民主党)も成立した。(3)はこの動きも脅威ととらえ、(15)鎮圧法を制定して(15)を弾圧するとともに、ヨーロッパでいち早く(16)制度を整備して、労働者の支持を得ようとした。

(3)は、外交面では(17)の孤立と、安定した国際関係の維持が、ドイツの安全保障に不可欠であると考え、列強間の関係の調整に力を注いだ。(18)年のドイツ・オーストリア・ロシアによる三帝同盟もその一環である。ロシアは1877年、ロシア＝トルコ(露土)戦争に勝利し、翌年の(19)条約で、ブルガリアを保護国とするなど、バルカン半島で勢力を広げた。ロシアのこの動きにオーストリアやイギリスが反対すると、ビスマルクは「公正な仲介者」を自称して、列強代表を集めてベルリン会議を開き、サン＝ステファノ条約を破棄させて、新たにベルリン条約を締結した。これによりブルガリアがオスマン帝国内の自治国とされたほか、ロシアはバルカン半島で得た権益の多くを手放した。ビスマルクは、1882年にもドイツ・オーストリア・イタリアの(20)同盟を結ぶなど、一連の同盟関係を築き、ヨーロッパの安定と自国の安全保障をはかった。

次の問いについて80字程度で答えなさい。

- ① 資本主義について説明しなさい。
- ② 社会主義について説明しなさい。
- ③ 資本主義の発達とともに労働組合が必要になった理由について説明しなさい。

次の問いに答えなさい。

1. クリミア戦争のロシア側の名目を答えなさい。
2. クリミア戦争後に結ばれた条約を答えなさい。
3. 1851年、ロンドンで開かれた祭典を答えなさい。
4. 17世紀以降のイギリスの政治体制を答えなさい。
5. 普仏戦争でフランスの帝政が崩壊した理由を答えなさい。
6. 普仏戦争後、フランスにできた自治政府を答えなさい。
7. サルデーニャにシチリアをゆずった人物を答えなさい。
8. 「鉄血政策」の鉄と血がそれぞれ何を指すのか答えなさい。
9. 1861年に農奴解放令を出したロシアの皇帝を答えなさい。
10. 第1インターナショナルが結成された場所を答えなさい。